

1 単元名 Horse(跳び箱運動)

2 単元目標

- 今できる動きや少し努力すればできそうな動きの練習に進んで取り組もうとすることができる。
(関心・意欲・態度)
- またぎこし(横・たて)・かかえ込みとびこし・横とびこし・前ころがりの中から自分ができそうな動きを自分で決め、友達と助け合いながら練習方法を工夫することができる。(思考・判断)
- 自分の力に合った動きや新しい動きができる。(技能)

3 指導計画(全4時間)

- 第1時・・・跳び箱運動を楽しもう。(Let's enjoy horse.)
- 第2・3時・・・自分にできそうな動きを決めて練習をしよう。(Let's try to step up.)
- 第4時・・・できるようになった動きを見せ合おう。(Let's present what we can do.)

4 指導上の立場

(1) 児童の実態

(体育科に関して)

体を動かすのが好きな児童が多く、体育科そのものに対する興味や関心は高い。用具の準備や片付けも協力して行うことができている。前単元「マット運動」では、「自分にできる動き」から「少し努力すればできそうな動き」へ向けての練習を自分で場を選んで行う経験もしてきている。そうした経験を生かして、本単元でも、自分の力に合った課題に積極的に挑戦する姿が期待される。

(イマージョンに関して)

本学級の児童は、1・2年時において音楽科でのイマージョン教育の経験がある。また、総合的な学習の時間でも、英語に慣れ親しむ機会があり、外国人講師に対しても物怖じせず、積極的にコミュニケーションをとろうとする児童が多い。簡単な英語の指示ならば通じることも多く、今年度当初も、体育科での新しいイマージョン教育に対して大きな戸惑いを見せる児童は少なかった。反面、英語による授業に不慣れな児童や積極的にコミュニケーションをとるのがやや苦手な児童もいるのが現状である。

(2) 授業づくりの視点

- 運動遊びの説明やきまりを確認するため、図や絵を示し、英語による理解を助けることができるようにする。
- 活動の間、教師が個別に英語で話しかけたり、称揚したりすることで英語に触れる機会が多くなるようにする。
- 活動時やふり返りの場面において、Can you do this? What can you do?という今回ねらいとした英語表現の質問に慣れることができるようにする。
- 学級担任は、イマージョン講師による英語の理解を助けたり、ティームティーチングによる支援体制でイマージョン講師と連携を図り、安全に留意して楽しい跳び箱遊びができるようにする。
- 個々の能力に応じた活動ができるように、めあて達成のための場づくりも工夫し、「できること」「もう少し努力すればできること」を児童自身が把握し、児童が意欲をもって終始活動に取り組めるようにする。

5 本時案(第3時)

目 標	これまでの練習でもう少し努力すればできそうな動きに挑戦することができる。
中心となる英語表現	Work together. Stay in line. Be safe. Can you do this? /Yes,I can. No, I can't. What can you do? /I can do this. Did you follow three promises? /Yes,I did.
準備物	跳び箱・マット・動きが示されたカード・カラーコーン・踏み切り板 学習カード (Can do カード)
学 習 活 動	教 師 の 支 援 ○=T1 ●=T2 ☆=英語理解への支援
1 あいさつをする	
2 準備運動をする	☆○準備運動で動きを示すことで、児童の英語理解を助けるようにする。
3 本時のめあてをつかむ	○ 基礎的な運動として準備運動にかえる跳びを取り入れる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 自分にできそうな動きに挑戦しよう。 Select the course you like. </div>

- 4 練習の場を協力して準備する
- またぎこし (横・たて)
 - かかえこみとびこし
 - 横とびこし
 - 前転がり

- 準備の前に跳び箱運動をする時の約束を守るようにカードを示しながら注意を徹底しておく。
- 準備した後は、自分が挑戦しようと思うコースの前に並んでおくよう指示しておく。

(3つの約束)

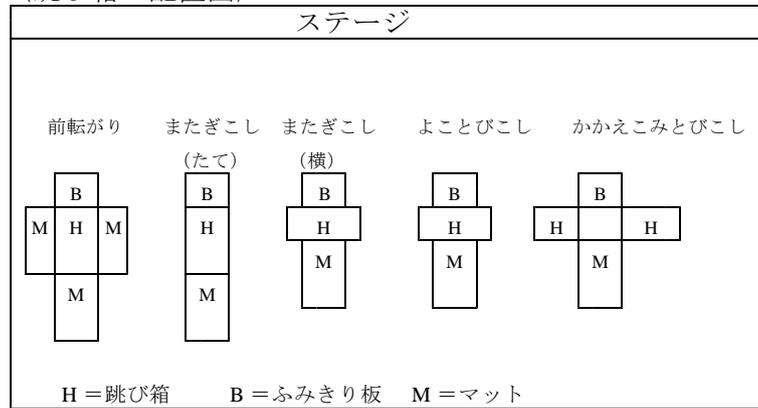
①協力する。 **Work together.**

②順番を守る。 **Stay in line.**

③安全を確かめる。 **Be safe and make sure.**

- 跳び箱運動の時に、図や絵を提示することで場を作りやすくできるようにする。

〈跳び箱の配置図〉



- 5 自分にできそうな動きに挑戦する

- T1 は場作りの場所で、T2 は跳び箱の置いてあるところで安全に分かれて運べるように補助する。
- 跳び箱の跳び方 (横跳び・縦跳び) のコーナーをそれぞれ分担し、児童を称揚したり、助言したりする。また、友達のよい動きを見つけた時は、どんなところがよかったのかを教え合うとよいことを伝え、児童同士がかかわり合いながら学習を進めることができるようにする。
- どの動きに挑戦すればよいのか決まらない児童には、「Can do カード」を見て決めることができるように支援する。
- 児童の実態にあった分かりやすい声かけを工夫する。

☆

上手に活動できている児童には・・・
Good job. Nice. Almost. So close.等
 もう少しでできそうな児童には・・・
Touch here. Raise your knee higher.等

- より高いめあてがもてるように、途中から跳び箱の高さを変えて挑戦できるようにする。

- 6 活動をふり返る

- 全体の動きを把握するため、適宜担当場所を交代し、支援する。

- 今回の授業の感想をたずねる。

- ☆○ Can you~?の表現に慣れるように繰り返したずねる。

Can you do this?
 What can you do?
 Did you follow three rules?

- ☆● 答えが難しいときは、日本語あるいは動きの絵を指し示してもよいことを伝える。

- ☆● 児童が答えに戸惑っている時は、答え方の手本を示す (動きの絵を指し示す) などの補助をして理解を助けるようにする。

- 今回できるようになった動きや反省を各自が「Can do カード」に書き込むよう指示する。(児童が記入するのは、教室に帰ってから)

- 7 片付けをする

- 安全に片付けができるように補助する。

- 8 あいさつをする

評価

- A 「もう少し努力すればできそうな動き」を自分で選んで何度も繰り返し挑戦することができる。
- B 「もう少し努力すればできそうな動き」を自分で選んで挑戦することができる。